

「学びの基盤」プロジェクト〈1年次〉 教育プログラムについて

プロジェクトの目的

AI時代を見据え、社会人としてよりよく生きていくことができるための「読解力」及び「自ら学ぶ力」が向上する教育プログラムを開発する。

期間 3年間（令和元年度から3年度）

委員 構成：有識者、都立高校長、教育庁職員
期間：平成31年4月から令和4年3月まで

「学びの基盤」プロジェクト教育プログラムの概要

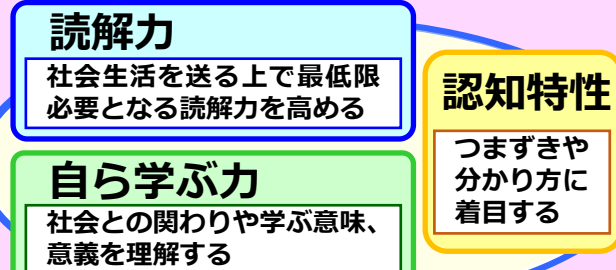
第1章 プロジェクト概要

「学びの基盤」プロジェクトの背景や基本的な考え方

- 「学びの基盤」プロジェクトの背景
- 目指す資質・能力

目指す姿 AI時代を見据え、社会人としてよりよく生きていくことができる		
情報を読み、正しく理解できる	説明する必要がある内容を適切に表現できる	知識や技能をアップデートし続け、自己変革できる

- 基本的な考え方



指導方法・教材の開発

第2章 実態把握

読解力や自ら学ぶための意識調査などの実態把握

- 実態把握の概要
- 読解力に関する実態把握
- 自ら学ぶ力に関する実態把握
- 認知特性に応じた支援に関する実態調査

読解力に関する実態調査	自ら学ぶ力に関する実態調査	認知特性に応じた支援に関する実態調査
<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語の基礎的な力の定着度（試験） ● 社会において活用できる言語能力（試験） ● 情報を伝える力を把握する（作文） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自尊感情、自己肯定感（アンケート） ● 学習に関する姿勢や取組（アンケート） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報読み取りの困難さの背景を判定するとともに、学習を支える行動上の特性を教員が把握する（アセスメント）

対象：都立高校1年 約1,300名
 時期：平成31年4月～令和2年1月

結果分析・課題把握

第3章 プログラム開発

読解力の向上、自ら学ぶ力の育成、認知特性に応じた支援に関するプログラム開発

- プログラム開発の概要
- 読解力に関するプログラム開発
- 自ら学ぶ力に関するプログラム開発
- 学習のつまずき及び認知特性を把握する資料

読解力ワーキンググループ

- 読解力を育成するための取組
 - 読解のプロセスと具体的対応策
- ① ペア音読
 - ② 要点の説明
 - ③ 課題作文

（例）新出単語の意味を理解し、自分の言葉に言い換えて説明する
 ～をAという ⇒ Aは～である
 （例）「水溶液」とは何かを、「溶質」、「溶媒」、「溶液」、「水」の語句を用いて、小中学生に分かるように説明してみよう。

自ら学ぶ力ワーキンググループ

- 自ら学ぶ力を育む環境づくり
- 教科・科目の本質に迫る「問い」の設定
- 自ら学ぶ力を育む授業づくり
- 学習活動について

なぜこの教科・科目を学ぶのか

教科の魅力（興味・関心、好奇心）

教科・科目で獲得する「社会で活用する力」

認知特性チーム

- 学習上のつまずきと、認知特性に応じた指導・支援の方法の開発
- 認知特性を把握するステータスシートの開発

「聞くことが得意」の場合
おすすめの勉強方法
 指示語の問題に関しては
 ⇒ 指示語の内容が何を指すかを考えながら聞くことを意識して授業を受けてみましょう。

- 学習指導案及び補助資料の作成

第4章 次年度に向けて

- 「学びの基盤」プロジェクト
- 読解力
- 自ら学ぶ力
- 認知特性

第5章 資料 調査用紙 等

【2年次】 ◆教育プログラムの検証 ◆認知特性に応じた指導・支援の方法を生かした「読解力」、「自ら学ぶ力」を統合したプログラムの開発

プロジェクトを通して明らかになった課題の解決に向けて、各教科で活用できる、社会とのつながりを意識した指導方法・教材の開発 資料を作成
【3年次】 「学びの基盤」プロジェクト教育プログラム－子供たちがAI時代を生き抜くために～ 完成